

魚津民報

第473号
2014年2月15日

日本共産党
（魚津市議会内会派）

連絡先
魚津市北鬼江155-1
TEL22-2891

日々のニュースを
国民の立場でわかりやすく
真実を報道し解決策を示す

しんぶん 赤旗

日刊3400円 日曜版800円

横暴な施政方針演説

「この道を進んでいこう」とも、こんなで頑張れば、必ず実現できる」……安倍首相の施政方針のことばである。昨年末、数の力で押し通した秘密保護法に反対の世論が急激に広がっているが無視。米軍基地の辺野古移転反対の審判が下ったが「速やかに取り組む」と。

歴史的建造物 加賀藩の建物

御塩蔵

鬼江川（鴨川）河口右岸に 御塩蔵番人の建物跡

本紙1月号に、岡田龍朗議員の議会報告として「御塩蔵」の記事を掲載したが、所在場所等の質問があったので改めて「御塩蔵」を取り上げた。

岡田議員が取り上げた「御塩蔵」は、「魚津市の自然と文化財を守る市民の会」が諏訪町の稲垣智恵子さんから得た情報「稲垣家はかつて御塩蔵番をしていた」を埋没林館長の麻柄一志学芸員、塩田学芸員に伝えたことから、加賀藩時代の建造物が現存しないことが分かった。

江戸時代の建築時期の建物（図1）の位置と場所が重なる。御塩蔵の位置と場所が重なる。御塩蔵の一部の可能性が高い。その場所（図2）は諏訪町3区。現在の稲垣さんの建物の位置がほぼ御塩蔵番人の建物の位置に当たる。



〔御塩蔵の一部〕

魚津市内で、加賀藩ゆかりの建物は唯一のものとなる。富山県内でも加賀藩の建造物は無いようである。

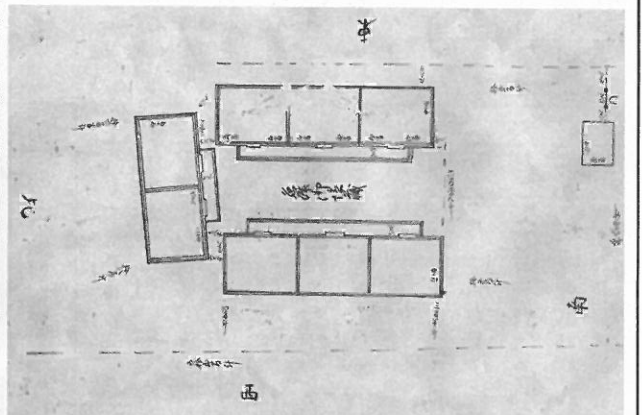


図1 御塩蔵の間取りを記した古図（魚津市立図書館蔵）

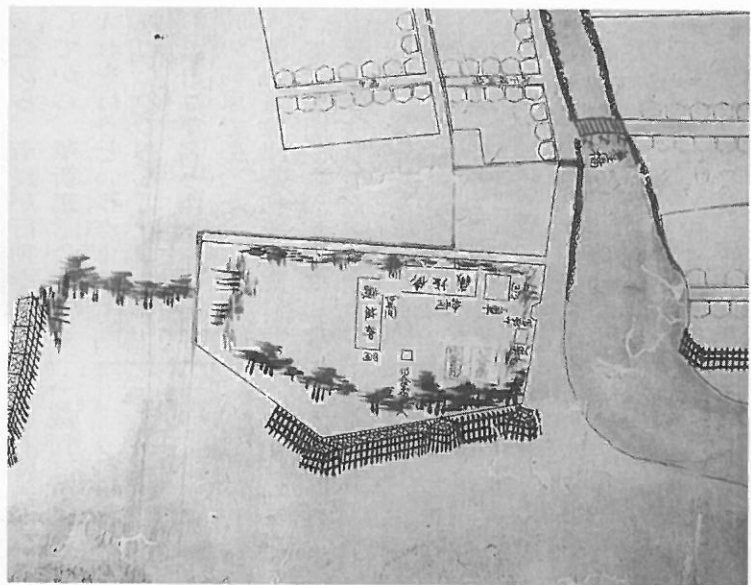


図2 魚津町惣絵図（魚津市立図書館蔵）の一部
鬼江川（鴨川）の河口右岸に位置する場所に、御塩蔵の屋敷が描かれている（1785年）。

12月議会 続報

市長

子どもたちへの平和教育の普及 平和を守る責務を強調



岡田龍朗議員が質問

澤崎市長は「戦争や原爆の悲惨さを次の世代へ正確に伝え、平和な社会を守り続けることが、重要な責務である。2006年度から、小学生高学年を対象に『戦争と平和のおはなし会』を開催している。子どもたちに命の尊さについて理解を深めてもらうため被爆体験記や富山大空襲などの朗読会も実施している。朗読会に参加した子どもたちは、命の尊さ、平和への思いを強く感じている。これからも、様々な機会をとらえて、子どもたちへの平和教育の普及に努めたい」と答えた。

市長から 予算回答

澤崎市長は、1月14日、日本共産党魚津市委員会の2014年度予算要望に回答した。



〔澤崎市長（右）から岡田議員に回答書〕



〔県庁各課に予算要望〕

県教委調査等に 「協力をしたい」

岡田議員は、昨年12月24日、25日、2日間わたり、富山県に2014年度の予算要望を行った。県教育委員会には、魚津市の御塩蔵の調査等に協力を求めた。「要望に応じて協力していきたい」と回答があった。

大波川

暮れから正月、そして鏡開きも過ぎた13日まで、第92回全国高校サッカー選手権大会のテレビ中継に釘付けにされた富山第一高校のイレブンには誠に失礼だが、初戦から一つとして勝てる相手と思われなかったが「がんばれ！がんばれ！」と応援した。初戦から決勝戦まで、対戦した相手のすべてが強豪チームであったからである。だが、富山一は戦った一試合、一試合をドラマにしてくれた。ドラマチックに勝ち抜き、次の試合でも、新たなドラマを作った。プロを思わせるようなプレーが随所にあった。はつらつと考えたプレーが際立った。準決勝は2対2でPK戦となった。このPK戦は専任のゴールキーパーがカットして、決勝に進んだ。俱利伽羅峠を挟んだ北陸決戦となった。終盤3分前にカウンター攻撃でゴール。ロスタイム、残り1分にPKを得て同点。延長戦を制して全国を制覇。前半戦に0対2でリードされ、大塚監督は、ハーフタイム中に「完封で勝った。PK戦で勝った。いろんなパターンで勝った。決勝戦にきた。まだ逆転での勝利はない」を諦めるなど言っている。後半戦のピッチに選手たちを送り出したという。監督が選手に「落ち着け、落ち着け」とジェスチャーを送る。最も落ち着かぬ様子は監督の方であったが、この映像もまたドラマの一部になった。そして大塚監督は言う。「田舎の子でもやれることを証明した」と……。

日本共産党とともに革新・民主・平和な日本を
まもろう憲法9条
ご意見をお寄せ下さい。

地中の樹根調査 期待される展示

埋没林館 リニューアルにむけて構想を検討中

12月議会続報

農業



資料 稲刈り風景

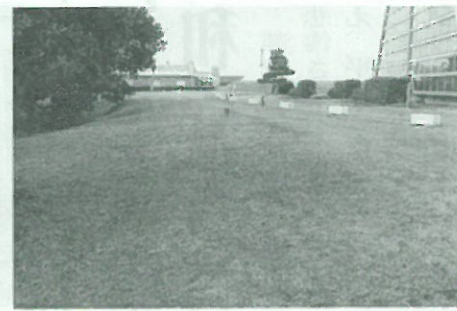
岡田議員は「今年産米品質、飼料米、耕作放棄地等については、どうなのか」と質した。四千万産建部長は「2013年度産米は、1等比率が73・

水族館 創立100周年リニューアルの成果 企画の成果を継続へ



岡田龍朗議員が質問

岡田龍朗議員は「埋没林の埋蔵分布調査はどうだったか。その成果を、どう企画展示に活かすのか」と質した。麻柄埋没林館長は「地中レーダーなどによる埋没林の分布調査で数か所から反応を得ている。常設展示などのリ



(この芝生の下(地中)に埋没林=埋没林館敷地)

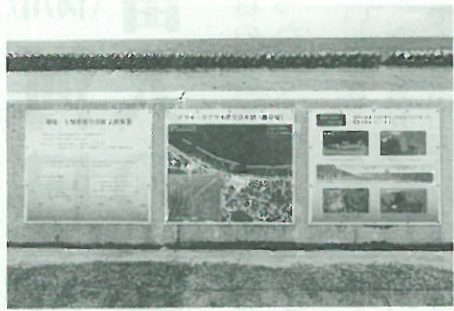
リニューアルを実施するので、構想中である。地中の埋没林の所在だけでなく、かつて巨木の森であった様子やどう森が消滅していったかを、直感的に分かるよう工夫した展示にしたい」と答えた。

耕作放棄地の解消を 飼料米の作付など模索

6%である。国の農業政策方針では、飼料米の収量に応じた補助金を導入することで、主食米から飼料米への転換を促そうとしている。飼料米は魚津市で9・5割作付けされている。需要先は、7割が市内で消費され、3割は全農富山へ委託している。飼料米は、流通経費や販路の問題など不透明な部分が多い状況であることや補助金があるとしても、諸経費を考えると収支はマイナスになることも聞いている。耕作放棄地は、2012年度は約8・5割ある。補助制度

水産業 藻場の再生を

岡田議員は、藻場再生事業や漁礁の成果などを質した。紙尾農林水産課長は「2009年度から、魚津港・経田漁港間で藻場再生やアマモの増殖を行い、増えている。魚津市と魚津漁協が主体で漁礁を3基設置している。8月と11月の潜水調査では、小魚が回遊しており、成果がでていくと思う」と答えた。



(藻場再生事業の説明板)



(田んぼ水槽が人気=魚津水族館)

魚津今昔雑話(15) 小津魚拓 魚津裁判所の存置④

いかに市長に認識不足の点があろうとも、議長が弱気の姿勢であろうとも、あくまで市長、議長を立て、市長には運動の先頭に立つてもらおう。だから、市長が行動を起こすから、革新懇話会が申し入れを行うという点まで気配りしたのである。

最高裁判所の事務長に結構高層なことも述べてきた。裁判官や弁護士などには些細と思われる問題でも、一人ひとりの国民にとっては人生を左右する争いことがある。裁判によって解決したいと

いう国民の権利を距離によって奪われてはならない。日本国憲法は、その第32条に「何人も、裁判所において裁判を受ける権利を奪はれない。」となっている。大町から撤退しなかったというのは裁判所、検察庁だけかも知れない。清河は「魚津市40年の思い出」社会教育叢書4に「富山地方・家庭裁判所魚津支部の存続について」を寄稿

これは署名と作戦を組んだ時の約束であった。清河も魚津裁判所存置について、黒田や高島が指摘した留意点だけでなく、魚津市の「風格」を口にして意義を強調するようになった。清河が「風格」を用いるまでは、「魚津民報」の掲載にもこの表現は使っていない。3月議会で魚津、黒部、宇奈月、入善、朝日の各議会で最高裁判所に差し出す意見書を満場一致で採択した。党独自の運動は、その後になつてからである。



写真は、党が1989年5月15日、中沖知事への存置申し入れ。橋本参議、中田、朝野両市議が同年11月29日、最高裁に出向き陳情した。

街頭宣伝も行った。ただ、大町校区に限っての宣伝に徹した。「大町から裁判所が無くなる。検察庁も無くなる。これ以上官公庁が無くなることを許してはならない」というものに地域も内容も限定したものであった。日本共産党独自に中沖知事にも要望した。橋本参院議員に同行してもらい、直接、最高裁判所に魚津裁判所存置を陳情した。

している。興味のある方は、清河のこの「思い出」を読めば、存置の取り組みの概要を知ることができる。清河の文章の行間から、署名と黒田らの果たした役割も知ってもらえることができると思う。「魚津裁判所の存置。これに市長が誠意をもって当たれば、市長が功成り名遂げたとしても、それはそれで意味もあろう、と取り組んできた。我々は魚津市の風格と魚

津市民の「裁判権」を守るために最も身近な司法機関の存置に貢献した。これでいいではないか。これが、存置が確定した時に交わした署名と中田の会話である。「魚津に残り、砺波が廃止された」違いはここにあったといえる。そこで、中田に、僧ヶ岳県立自然公園の指定でも何か策を弄したことがあったのか、聞いてみることにした。(次号につづく)

身近なあなたの相談相手

日本共産党

ご意見をお寄せ下さい。